

2021 年度  
保健医療学部看護学科  
新入生アンケート結果

実施日時：2020 年 4 月 3 日（土）

実施場所：6402・6403 講義室

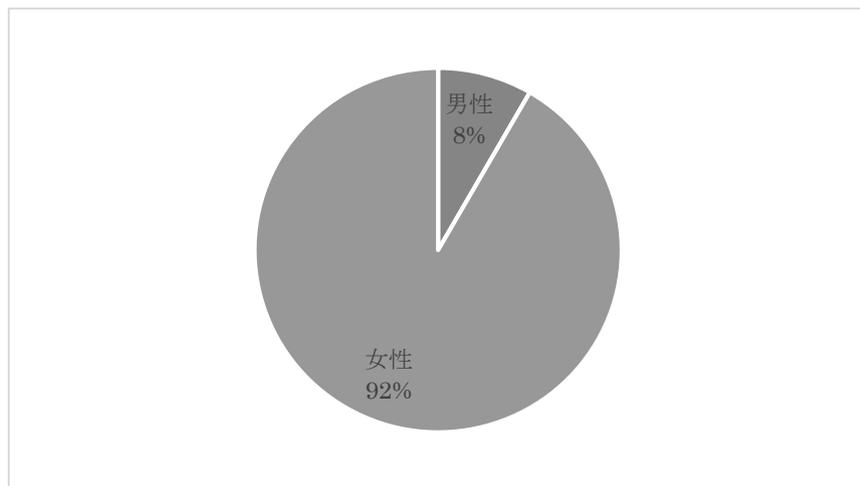
対象人数：2021 年度保健医療学部看護学科入学生 84 名

回収数（率）：84 名（100%）

## 【集計結果】

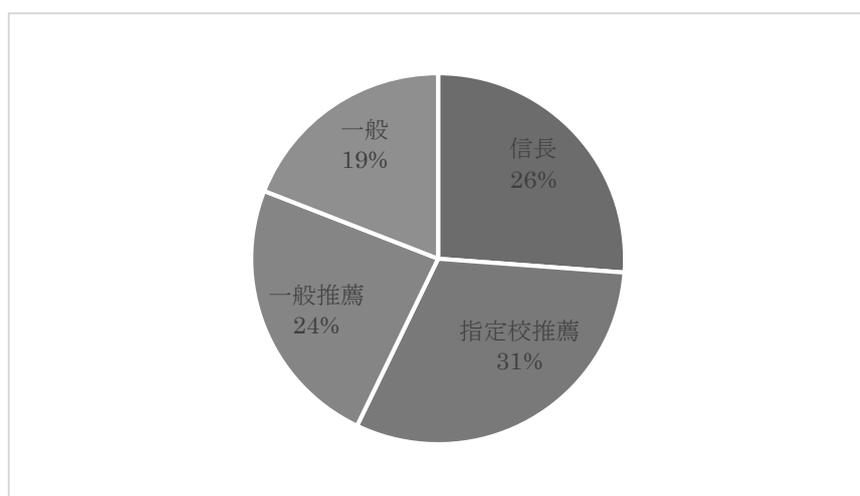
### 1 性別

男性	女性	無回答	計
7	77	0	84
8%	92%	0%	100%



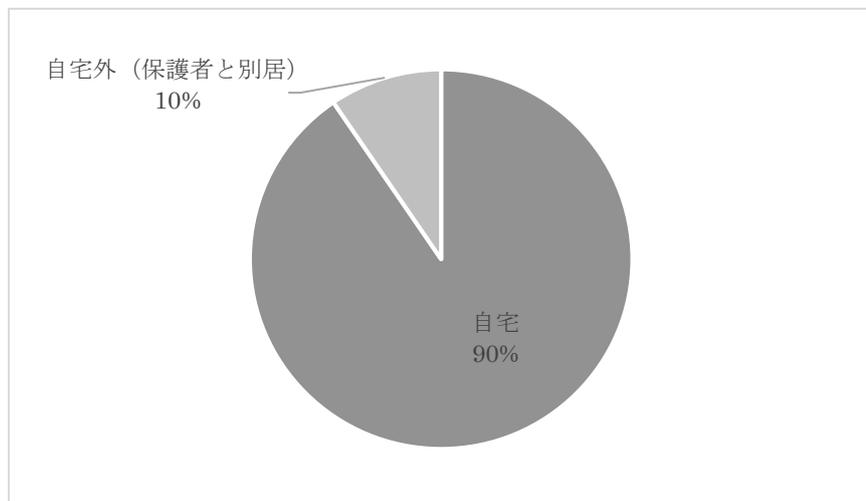
### 2 入試区分

一般選抜（一般）	指定校推薦	信長入試	一般推薦	共通テスト	計
16	26	22	20	0	84
19%	31%	26%	24%	0%	100%



### 3 住居

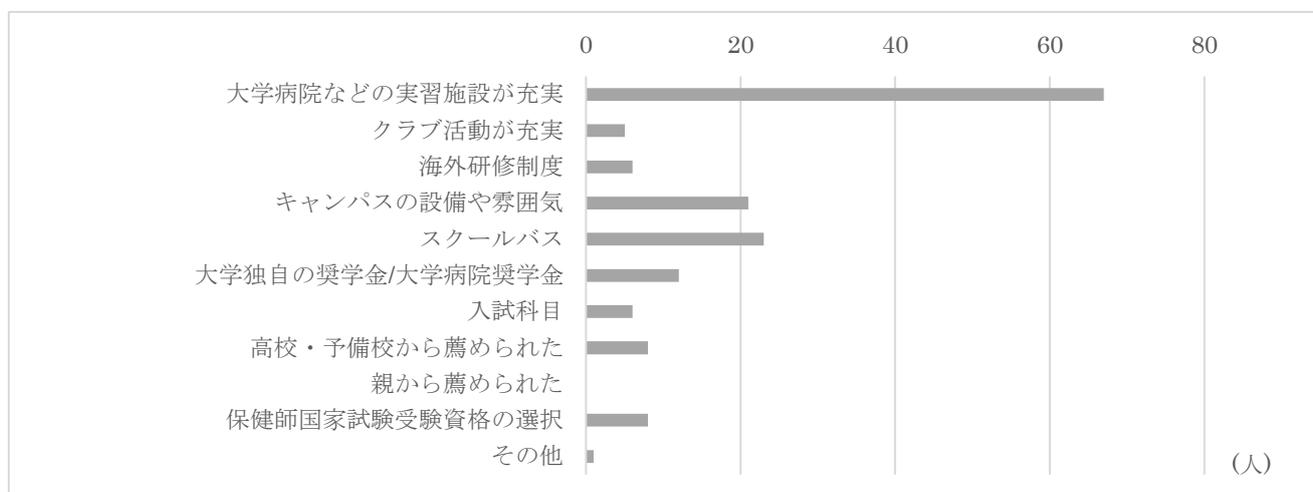
自宅	自宅外	計
76	8	84
90%	10%	100%



### 4 朝日大学への入学を決めた理由は何ですか。2 つまで選んでください。

大学病院などの 実習施設が充実	クラブ活動が充 実	海外研修制度	キャンパスの設 備や雰囲気	スクールバス	大学独自の奨学 金/大学病院奨 学金
67	5	6	21	23	12
80%	6%	7%	25%	27%	14%

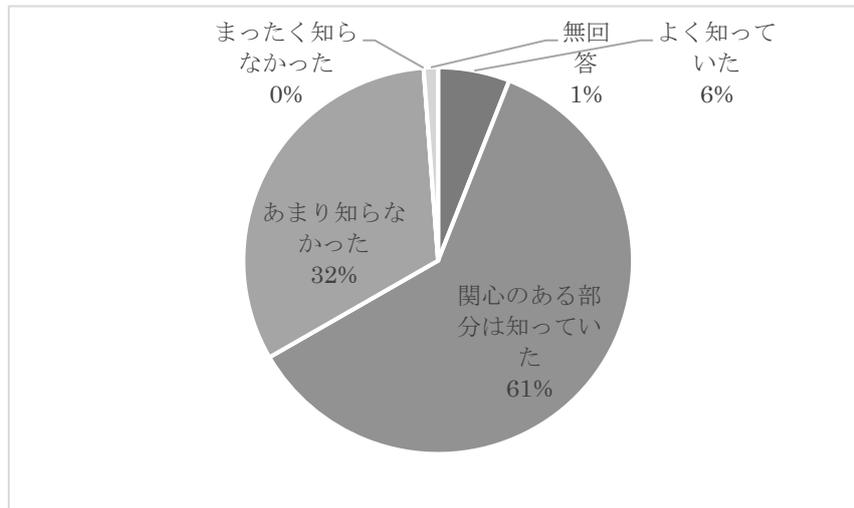
入試科目	高校・予備校から 薦められた	親から薦められた	保健師国家試験受験 資格の選択	その他
6	8	0	8	1
7%	10%	0%	10%	1%



その他：オープンキャンパスの時の先生の対応がとても丁寧だったから (1)。

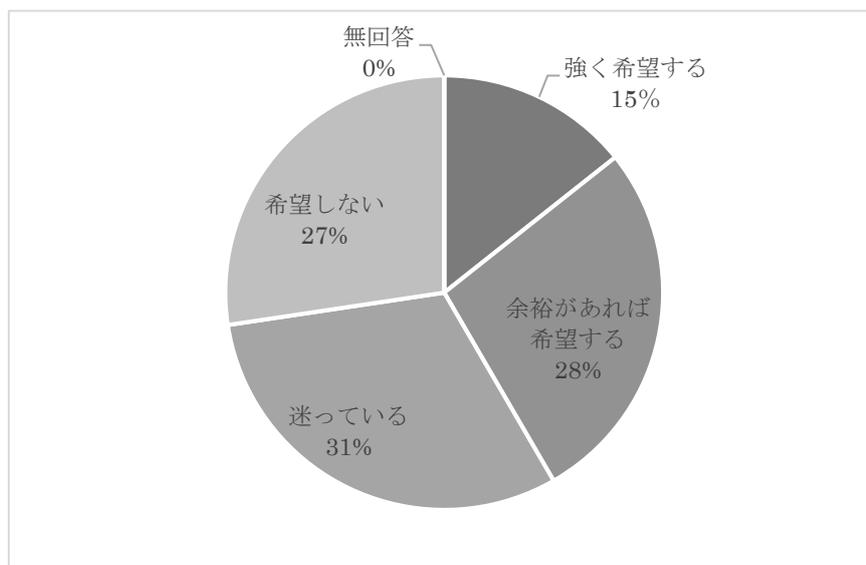
5 看護学科の教育内容について入学前から知っていましたか。

よく知っていた	関心のある部分は知っていた	あまり知らなかった	まったく知らなかった	無回答	計
5	51	27	0	1	84
6%	61%	32%	0%	1%	100%



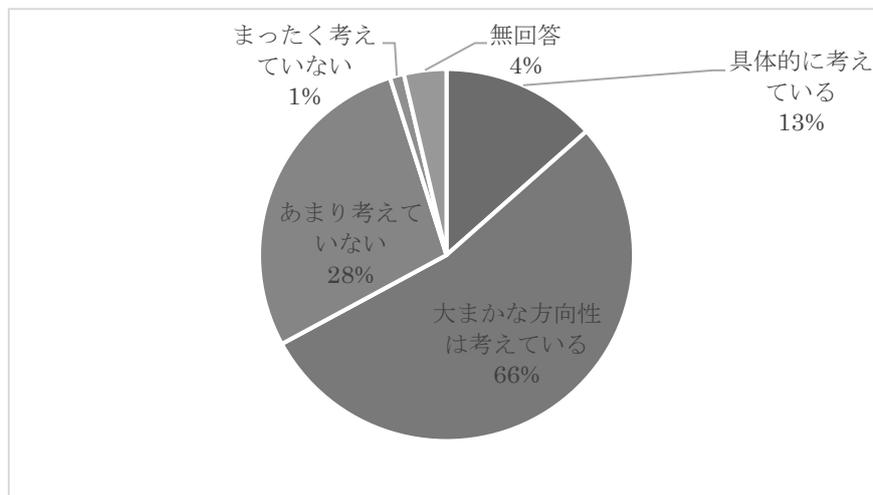
6 保健師課程の選択は希望していますか

強く希望する	余裕があれば希望	迷っている	希望しない	無回答	計
12	23	26	23	0	84
15%	28%	31%	27%	0%	100%



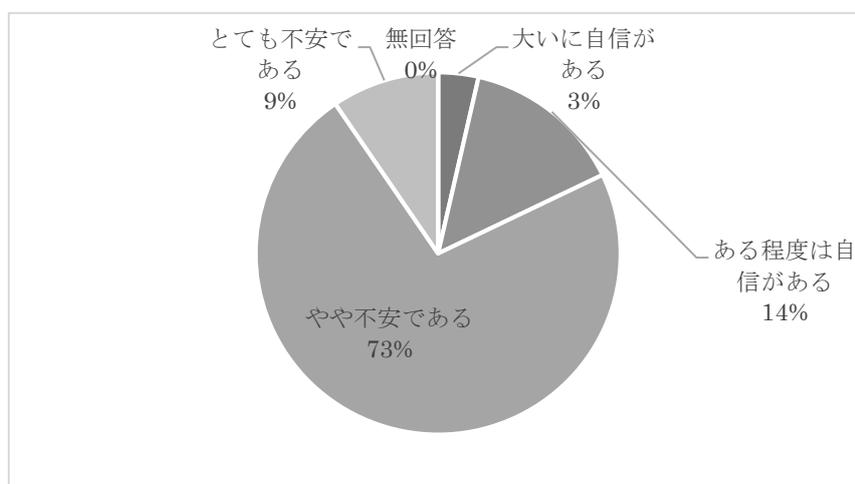
7 卒業後の希望進路（就職、助産師学校等への進学）は考えていますか。

具体的に考えている	大まかな方向は考えている	あまり考えていない	まったく考えていない	無回答	計
21	55	7	1	0	84
25%	66%	8%	1%	0%	100%



8 看護学科での学修について自信はありますか

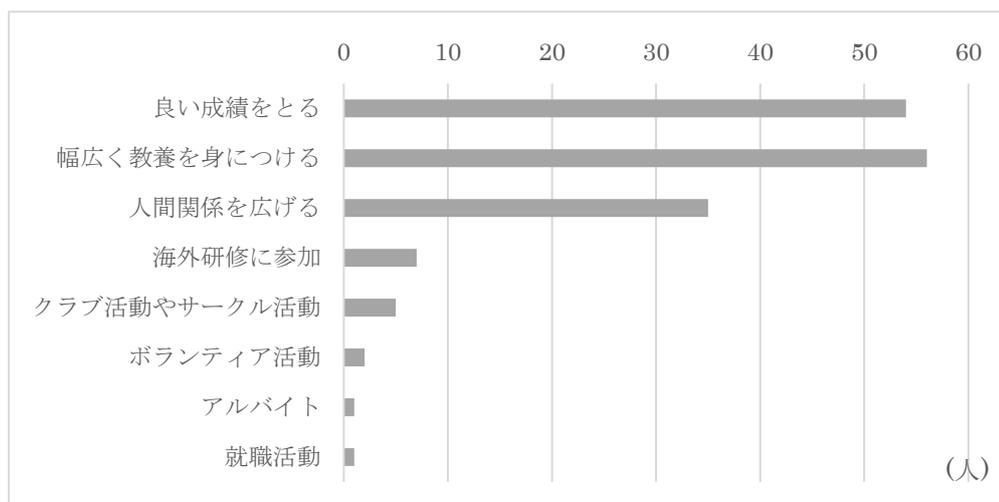
大いに自信がある	ある程度は自信がある	やや不安である	とても不安である	無回答	計
3	12	61	8	0	84
3%	14%	73%	10%	0%	100%



9 大学生活で特に力を入れていきたいものは何ですか（2つまで）。

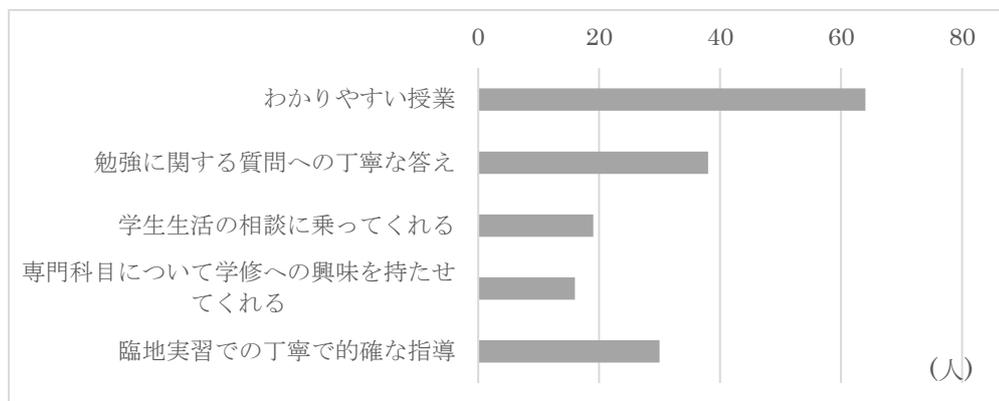
よい成績を取る こと	幅広く教養を身 につけること	人間関係を広げ ること	海外研修に参加 すること	クラブ活動やサ ークル活動	ボランティア活 動
54	56	35	7	5	2
64%	67%	42%	8%	6%	2%

アルバイト	就職活動	無回答
1	1	0
1%	1%	0%



10 教員に特に期待することは何ですか（2つまで）。

わかりやすい授業	勉強に関する質問 への丁寧な答え	学生生活の相談 に乗ってくれる	専門科目について 学修への興味を持 たせてくれる	臨地実習での丁寧 で的確な指導	無回答
64	38	19	16	30	0
76%	45%	23%	19%	36%	0%



【学生生活について感じていることや要望（自由記述）】

- ・部活動に入っているため、実習の時期を考慮してもらいたい。

## 【まとめ】

〈男女比〉については、男子学生の割合が昨年度と同様に低く、新入生 84 名中 7 名（8%）となった。〈入試区分〉は昨年度と比較して、一般入試および一般推薦はほぼ同率であった。今年度は、信長入試による入学生が昨年度 15 名（17%）から 22 名（26%）と増加し、指定校推薦が昨年度 34 名（38%）から 26 名（31%）に減少した。それぞれの入試区分による新入生の偏りがなくなってきた。そのため、学力や学生像が多様化していることが推察されるとともに、7 割以上の学生が共通テストなどの筆記試験を伴う受験勉強を経験していない状況にある。国家試験受験に向けた日々の学修習慣の定着のためには、個別的な学修指導が重要となってくる。看護学科の学生の〈住居〉は、今年度も自宅通学生の割合は 90%と高く、保護者に対しても学生の日々の学修への支援を依頼する必要がある。

〈朝日大学への入学を決めた理由〉については、昨年度と同様に「大学病院などの実習施設が充実している」ことが高い割合を示した。次に、「スクールバスがあつて通学しやすい」という割合が昨年度と異なり上昇していた。新型コロナウイルス感染症に伴い、人や場所の移動の自粛や地元志向の高まりといった社会的な背景の中、今年度の新入生は大学・実習施設を含めた通学のしやすさを重要視したことが考えられる。昨年度割合が高かった「キャンパスの設備や雰囲気が良い」は 21 名と、前年度よりやや低下したものの、入学を決めた理由の第 3 位となった。このことは、昨年度はオープンキャンパスの縮小に伴い、事前に大学を知ってもらう機会が減少したことが影響した可能性が考えられる。その他の理由に「オープンキャンパスの時の先生への対応がとても丁寧だったから。」と記述している学生がいたことから、大学の雰囲気を知り、教員や在学生などと関わる機会を持つことは、新入生の大学選択のポイントとなることが予想される。その他に、「大学独自の奨学金制度や大学病院の奨学金が充実している」や、「高校や予備校で薦められた」「親から薦められた」割合は昨年度より減少していた。「クラブ活動が充実している」「保健師国家試験受験資格の選択」の割合はやや上昇し、大学生活の内容を重要視する傾向にあった。これらのことから、今年度の新入生は、「大学・実習施設に通学しやすく、設備や人を含めて雰囲気の良い大学」として本学を選び、充実した大学生活を送りたいと考えていることが窺える。

〈教員に期待すること〉としては、「わかりやすい授業をしてくれる」という割合が最も多く、次いで「勉強に関する質問に丁寧に答えてくれる」「臨地実習における丁寧で的確な指導」という結果であった。また、「学生生活の相談に乗ってくれる」は 23%と前年度に比べて 8%上昇し、学修以外での教員の関わりも期待している。

〈看護学科での学修についての自信〉では、「大いに自信がある」「ある程度は自信がある」は 17%であり、今年度が一番低い結果となった。「やや不安である」「とても不安である」は 83%となり、学修に対する不安が強い。一方で、〈看護学科の教育内容について知っていましたか〉については、「全く知らなかった」という回答はいないものの、3 割以上の学生が「あまり知らなかった」と回答しており、多くの学生が教育内容をよく理解して入学しているとは言えない状況は、昨年と同様である。昨年度に続き、入学前セミナーが中止となり、学生は、学修への不安を少しでも解消するために教育内容を調べる、など、自ら行動するまでには至っておらず、受け身の状況にある。

〈卒業後の希望進路〉については、9 割以上が「具体的に考えている」「大まかな方向は考えている」と回答しており昨年度より高い。〈保健師課程の選択〉を「強く希望する」「余裕があれば希望する」学生は半数以下となり昨年度より低い。卒業を見据えて大学を選択しており、目的意識は高いと言える。

〈大学生生活で特に力を入れたいこと〉については、「良い成績を取ること」が昨年度より上昇し、「幅広い教養を身につけること」「人間関係を広げること」は昨年度と同率であった。「アルバイト」と回答した学生は1名に減少し、「海外研修に参加すること」「クラブ活動やサークル活動」「ボランティア活動」が1～3名増え、日々の学修以外の大学での交流を期待していることが考えられる。

以上の結果から、本年度の新入生は、看護学科の授業や実習に対するイメージはあまり具体的ではなく不安も強いが、目的意識や学修意欲は高く、学修以外の学生生活も充実したものにしたいと考えている。そのために、教員の幅広いサポートを期待している。教員は、学修面での学生の不安を解消し理解を促すために、分かりやすい授業の工夫や、具体的で丁寧な実習指導を行う必要がある。また、アドバイザー制度を十分機能させ、学生生活や修学について、個別的な支援を強化していくことが求められる。また、今後は感染症対策に十分配慮しながら、クラブ活動やサークル活動、ボランティア活動など、幅広く情報提供をしながら、学生同士が交流できる機会を設けることを検討できると良い。